

恵みと真理のニュース



2013年10月の二次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】 地獄と天国の二道で父を救ってくださった神様に感謝を捧げます。

私は不信仰の家庭で生まれイエス様に対する信仰が全然ないまま成長し大人になって信じる家庭に嫁に行きました。結婚してもイエス様の信じなくて暮らす中で田舎から新しい所で生活するため必要な物を買うため店に行きました。店にいた方が恵みと真理教会の区域長で私を伝道しました。私は区域長に“今私が平安な生活をしているからせめて今教会に通ってイエス様を信じる理由がないと”断りました。すると区域長はイエス様を必ず信じる理由をおっしゃいながら“お嫁さん、今必ずイエス様を信じなければなりませんよ。そして何もなくて平安なときに信じる人こそ福ある人ですよ。”と進みました。その日から家に一人でいると“この世でどのように生きるのが良く生きる事なのか？死んだ後には私がどうなるのか？この世で真な幸せと死後世界について深く考えるようになりました。そして天国の永遠な生について区域長が伝えてくださった天国の福音の話が心にきました。初め教会に行っただけで概念も知ってなくて慣れてない用語と説教が理解できなくてただ教会に行ったり来たりしました。教会を辞めようかと思いましたが私を伝道した区域長が熱心に世話をしてくださって御言葉もよく理解出来なくても区域長について礼拝は休まずに参加しました。続けて聞くうちに聖霊様の助けである日からは御言葉がよく聞こえるようになり、イエス様に関する事も知るようになり信仰が出来ました。ついに真実にイエス様を主と受け入れ救いの確信を持つようになりました。一人子を十字架にかけるとまで私達を愛した神様の慈しみと恵みを深く悟り感謝するようになりました。今も私が初めて教会に来た日と真実にイエス様を信じ受け入れ告白をしたその日を考えてこのような私の

運命を福になり栄光に変えすばらしい選択をするように導いてくださった神様の恵みに限りない感謝を捧げなければなりません。もしその当時“最後まで福音を拒否して教会に行かなかつたら、途中で教会を辞めたらと考えるとめどが付かないです。私が熱心に教会に通うとイエス様を信じない親が“あなたはどのようにしてイエスを信じるようになったのか？”とののししながら私を叱りました。父親は世の中でとても賢くて博学多識な人でした。そんな父親に私が“お父さん、イエス様を信じれば天国に行きます。”と福音を伝えるたら“一生人に迷惑かけなくて真面目に生きれば良いよ”と言って救いの恵みと真理が言葉にならないと“あなたが狂ったね。教会でいくら洗脳されてこんなになったのか？”むしろ私を叱りました。切ない心で福音を伝えれば伝えるほど反対に父は私を説得させようとして父とよく戦いました。そうするうちに父が肺癌の末期で病院で入院して寿命があまり残ってないと宣告を受けました。全羅北道のイクサンにある親の家によく行って父を伝道すると周囲の妨げる人が多くて泣きながら家に帰って来ました。当時私は伝道局で奉仕しながら主日ごとに病院で伝道し多くの患者達を決信させ主の所に導きました。それで家族ではない他の人も伝道するのに父親を伝道できないことが痛くて切なかったです。“神様、かわいそうな父を救ってください。ぜひ地獄に行かないようにしてください。”神様に涙を流しながら父の救いのため祈りました。伝道局と一緒に奉仕する方々が主日の奉仕を終えて遅い時間にもかかわらず遠いイクサンまで一緒に行きました。ちょうどその日は父が夜遅くまで寝なくて起きていました。周りにも妨げる人もいなかったです。福音を聞かせると父は“私が何もしてないのに天国にどうやっていくのか？廉恥がないよ。今まで娘を大変させたのに…”と言われました。心

が開いた事を確認して勸士が決信祈りを導くと純粋にイエスを信じて告白をしました。父が決信祈りの前は涙をたくさん流しましたが“イエス様を信じます。”と父が言った瞬間に娘の道理をしたという安心感と共にこれからは父が天国に行く希望で私の心は喜び溢れ幸せで涙が出ました。その後まもなく父は私達の6人兄弟が見るなかでジョンジュ聖殿の大教区長の牧師の司式で葬式礼拝をささげるなかでとても明るく平安な姿で天国に召されました。その日神様の恵みに感謝を捧げ賛美しました。且那の家の家族はみんな信仰生活をしていて特に田舎の教会の勸士である姑は私達の家族のため休まずに祈ってください私が首区域長として教会で職分を忠誠に尽くし専念するように励みあってくれます。且那も男性奉仕連合会の環境部で熱心に教会と聖徒のため奉仕しています。また、上の娘は大学でピアノを専攻して教会学校で小等部の聖歌隊の教師として奉仕し、二番目の娘は外国人宣教会で中国語担当として奉仕しながら各自からいただいたビジョンを捜しています。全ての家族が救われ今日このように礼拝中心、教会中心の生活しながら神様から受けたダラントで主の体である聖殿で奉仕し使える楽しみを味わっているから日々が楽しくて感謝します。まだ救われてない家族のため私の努力と祈りもけして無駄にならない事を信じます。世の中で生きながら大変で様々な苦難が来ますがその時ごとに神様に祈り委ねると神様は問題を解決をする知恵と能力を与えてくださいます。また、全ての事に万事が益となるように共に働きます。相変わらず主だけを愛しながら主の前でいつも真面目で忠誠した姿勢で生きて行きます。もっと信仰の元になる私達の家庭になる事を願いながら神様に全ての栄光を捧げます。ハレルヤ！



【信仰コラム】 イスラエルよ、わたしに聞き従え

“わたしの民よ、聞け、あなたに定めを授ける。イスラエルよ、わたしに聞き従え。あなたの中に異国の神があってはならない。”（詩81：8～11）

神様は人々の幸福の為に数多くの命令と約束を下され、それは聖書に記録されています。それゆえ、私たちが聖書を考察してその中から神様の命令と約束が何なのか分かるのは全く大きな喜びです。本文に記録されたお言葉の中で神様の珠玉のような命令と約束を調べます。第一に、神様は“あなたの中に異国の神があってはならない。あなたは異教の神にひれ伏してはならない。”と命令され、“わたしが、あなたの神、主。あなたをエジプトの地から導き上った神。”と仰いました。神様を敬排するのに優先とされるのは異教の神を敬排しないことです。これは異教の神が実在するからではなく、人々がサタンに惑わされて偽りの神に仕えるためです。真の神様はどのような方でしょうか。“わたしが、あなたの神、主。あなたをエジプトの地から導き上った神。”とのお話には三つの内容があります。第一は、選ばれた民を救援された神様でいらっしゃるという意味です。神様は幼い羊の血でイスラエルの民を救贖されました。第二は、神様の民に供給する神様でいらっしゃるという意味です。出エジプトしたイス

ラエルの民は広野を通る間、必要である食べ物、着物、飲み物を準備しなかったですが、神様はこれら全てのもの40年間供給して下されました。第三は、神様の民を保護する神様でいらっしゃるという意味です。神様は険しくて気候が悪かった広野の道で雲柱と火柱でイスラエルの民を保護され、病を予防して癒してください、敵からも保護して下されました。私たちはイエスキリストの中で私達を救贖され、私たちに必要な全ての物を供給され、私達を保護される真実な神様が分かるようになります。第二に、神様は“口を広く開けよ、わたしはそれを満たそう。”と約束されました。人間の愚かさの一つは神様に向け、口を広く開けないことです。人が神様のお助けと福を賜うことの必要性を切実に感じない限り、神様に向け口を広く開けません。自足と自慢は異なります。自足は助けられて福を賜う神様を頼りとする時、得られる結果です。自慢は自身を頼りにする時得る結果です。思い上がって‘私に不足はない’と言う人に対し、聖書はこのように仰います。“あなたは、『わたしは金持ちだ。満ち足りている。何一つ必要な物はない』と言っているが、自分が惨めな者、哀れな者、貧しい者、目の見えない者、裸の者であることが分かっていない。”（黙3:17）

神様は切なる心で慕う靈魂に満足を下され、飢えた人のように神様のお助けと福を賜うことを待ち焦がれる人に満たして下されます。それなら、どのようにするのが神様に向け口を広く開けるのでしょうか。まず、神様に向け大きくて多く求めてください。霊肉共に必要なものは全て求めてもいいです。霊的なものは求めてもいいが、物質的なものなら求めてはいけないという話は聖書的ではありません。そして、徹底に随順してください。そして、完全に信じてください。皆さんが大きくて多く求めて、徹底に随順して、完全な信仰で口を広く開けると偉大で豊かでいらっしゃる神様が満たして下されます。神様が私達をイエスキリストの血でサタンの手を免れさせ、天国に行くまで全てのものを供給され、保護され、導いて下されます。皆さんがこのような神様に仕えて神様のお助けと福を賜うことを盛んに求めるが、大きくて多く求め、徹底に随順し、完全な信仰で神様の満ち賜うことを体験して幸せな日々を送ることを願います。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

さいわいである人



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

人は誰も “さいわいである人” になるのを願います。するが “さいわいである人” と言うのはどんな人を意味するかを明確に言ってみなさいと言えど断定的に言うのをためらいます。詩編 1 編には “さいわいである人” に関して明確に定義しておきました。さいわいである人は誰でさいわいである人はどんなに生きて行かなければならないし、さいわいである人は何を体験するようになるかをおっしゃっています。

詩編 1 節に記録されるのを “**悪しき者のはかりごとに歩まず、罪びとの道に立たず、あざける者の座にすわらぬ人はさいわいである。**” と言いました。さいわいである人が拒否して排撃することを三つで分けておっしゃいました。

第一は、悪人のはかりごとに従わないと言いました。

使徒ヨハネはヨハネの第一の手紙 5 章 19 節にまた、わたしたちは神から出た者であり、全世界は悪しき者の配下にあることを、知っている。” と言いました。悪しき者は悪魔を示すのです。悪魔は悪しき者の親分です。悪魔の本質に属した著しい速成は偽りを行うのです。イエスキリストが悪魔の正体に対しておっしゃるのを “**あなたがたは自分の父、すなわち、悪魔から出てきた者であって、その父の欲望どおりを行おうと思っている。彼は初めから、人殺しであって、真理に立つ者ではない。彼のうちには真理がないからである。彼が偽りを言うとき、いつも自分の本音をはいているのである。彼は偽り者であり、偽りの父であるからだ。**” (ヨハネによる福音書 8:44) しました。だから自分の志を果たして欲望を満たすために罪のない人を欺いて被害を被らせることは偽りの父である悪しき悪魔のはかりごとに従う行為です。また真理の言葉を間違えて伝える者等とキリスト教を標榜する似以非団体を庇護してその活動領域を広げるようにすることも偽りの父である悪しき悪魔のはかりごとに従う行為です。また不法や非正常な手段と方法で得た情報によって推測で人を責めて定罪する行為、自分を偽装して投書する行為は偽りの父である悪しき悪魔のはかりごとに従う行為です。しかしさいわいである人は真実に行うのが好きです。真実は神様の性分です。

ヘブル人への手紙 6 章 18 節に “**それは、偽ることのあり得ない神に立てられた二つの不変の事がらによって、前におかれている望みを捕えようとして世をのがれてきたわたしたちが、力強い励ましを受けるためである。**” しました。さいわいである人は自分の志を果たそうとあるいは目前の利益のために悪人のはかりごとに従う事をしないです。皆さんはさいわいである人らしく処身して悪人のはかりごとをきっぱりと拒否して排撃してください。

二番目は、罪人の道に立たないです。

“罪” という単語は “目標物を当てることできない”, “道を誤って行くこと” という意味があります。人間の生の目標は神様を仕えるのです。人が仕えなければならない神様は聖書に啓示された神様外にはないです。世の中には多くの宗教があって人々は多様な神々を仕えています。しかし真実を言わば “自らいっしやる創造主神様” 以外の他の神々は人間が考案し出した観念上の神で実在しない神さまでその背後には惑う悪魔があります。神様は罪人を救援しようと神様のイエスキリストを世の中に送りました。そして罪人たちの罪をあがないするように十字架につけられて死なれ葬られてから三日ぶりに死亡権勢を勝って復活するようにしました。イエスキリストがおっしゃるのを “**神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。**” (ヨハネによる福音書 3:17) しました。天地を創造されたし罪人を救援するイエスキリストの神様を仕えなければいくら善良な人で宗教的な人でも罪人の道に立っている人です。イエスキリストの神様外にも救援の道があると言う人も罪人の道に立っている人です。さいわいである人はどんな場合でも罪人の道に立たないです。

三番目は、傲慢な者の席に座らないです。

聖書は “傲慢な者” という用語は神様の権威と光栄を無視する行動をする者を意味します。旧約聖書創世記 11 章に見ると傲慢な者の見習うとはいえニムロツと彼を追従する者等に関する記事があります。ノア洪水の以後に歳月が経って人々が盛んになりました。神様がノアとその息子たちにおっしゃるのをあらゆる地に広くいっぱいになってその中で盛んにしなさいと言いました。当時にすべての人の言語が一種類だけでした。人々が東に移住している途中シナル地で広闊な平地を見つけました。彼らはその所に定着して散らばらない意見を集めました。彼らは城と台を積んで台てっぺんを天に着くようにして自分たちの名前を出して地面に散らばることをまぬかれようと言いました。神様が彼らの言語を混雑するようになさることで彼らの城を積む事は腰砕けになった。そして神様が彼らをあらゆる地面に散らしました。(創世記 11:1~9) このように神様の絶対的権威の言葉を無視して神様の光栄を横取りすることは傲慢な者の席に座る行為です。さいわいである人は悪人のはかりごとに従わないです。罪人の道に立たないです。傲慢な者の席に座らないです。

詩編 2 節に記録されるのを “**このような人は主のおきてをよろこび、昼も夜もそのおきてを思う**” と言いました。さいわいである人が積極的に能動的に行う事があります。

第一は、エホバの律法を楽しがります。

エホバの律法と言うのは聖書を示します。聖書は神様が人生たちに授けられた言葉が記録された本です。さいわいである人は神様の言葉を楽しがります。神様の言葉は万物がどんなにそしてどうして存在するかを分かるようにしてくれます。神様の言葉は神様がどんな方で人生たちのために何を行うかを分かるようにしてくれます。神様の言葉は人がどうやって暮さなければならぬかが分かるようにしてくれます。神様の言葉は死後世界と歴史の終末に関して分かるようにしてくれます。神様の言葉は驚くべきな能力があります。その言葉を信じて従順すればその不思議な能力が分かるようになってまた体験することができます。

- ① 神様の言葉は創造する能力があります。
- ② 神様の言葉は万物を保存する能力があります。
- ③ 神様の言葉は生きている運動力があり人の心の中考えと意図を選り分ける能力があります。
- ④ 神様の言葉は生まれかわるようにする能力があります。
- ⑤ 神様の言葉は信仰を生産する能力があります。
- ⑥ 神様の言葉は賢くする能力があります。
- ⑦ 神様の言葉は病気をいやして危境で引き上げる能力があります。
- ⑧ 神様の言葉はふんだんにさせる能力があります。
- ⑨ 神様の言葉は心の平安を持って来る能力があります。
- ⑩ 神様の言葉は悪魔の試験を勝つようにする能力があります。神様の言葉はこのように多様な能力があります。さいわいである人は神様の言葉を信じて従順することを樂しがります。皆さんは皆神様の言葉を楽しがって言葉の能力をますますもっと深くてふんだんに体験するようになるように願います。

二番目は、さいわいである人はエホバの律法を昼夜に黙想します。

聖書を昼夜に黙想するという事は何日の間集中して聖書を読んで黙想している途中何月の間忘れて過ごすのではなく倦まず弛まなく黙想するという意味です。毎日そして倦まず弛まらず一生の間黙想することを言います。しかしいつも聖書を手に持っていることはできないので聖書句節たちを覚えるようにしてください。そしてその言葉を昼夜に黙想してください。

詩編 3 節に記録されるのを “**このような人は流れのほとりに植えられた木の時が来ると実を結び、その葉もしぼまないように、そのなすところは皆栄える。**” しました。さいわいである人らしく行う聖徒たちに口約束された神様の恩寵に関する言葉です。

第一は、小川のほとりに植えた木のようにになると言いました。

小川のほとりに植えた木が根を小川の底に伸びていつも豊かな水を得るように神様頃からふんだんな能力と恵みを供給受けます。そして神様に光栄を帰して主を嬉しくする傳導の実、奉仕の実を結ぶようになります。また枯渴しない所望と喜びを得るようになります。

二番目は、その行事がすべて万事が意のようになると言いました。

亨通と言うのは難しさが全然ないことを意味するのではないです。不便と苦痛を経験する事があっても神様の慰勞と能力でこれを勝つようにして下さって患難と苦難がついに福と光栄になるようにします。6 節に記録されるのを “**主は正しい者の道を知られる。しかし、悪しき者の道は滅びる**” しました。さいわいである人の他の名前は “義人” です。イエスキリストにあって義のあると言うことを得た人です。 “私は悪人のはかりごとを追わなくて罪人の道に立たなくて傲慢な者の席に座りません。私はただエホバの律法を楽しがってその律法を昼夜に黙想します。” こんなに告白することができる人は真実でさいわいである人です。このような人は神様頃から義人と呼ばれるようになって彼の一生は永遠な意味と価値を持つようになるでしょう。神様が彼の生を認めてくださるからです。皆さんは皆さいわいである人と呼ばれてさいわいである人らしく住んでさいわいである人に約束された神様の恩寵を享受するようお願いします。